

## 病害虫発生予察情報予報第 3 号

佐賀県農業技術防除センター

6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。

農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

1. 農薬を散布する場合は、風向きなどに注意し、周囲に農薬が飛散しないよう注意しましょう。
2. 水田で除草剤を使用する場合は、一週間程度かけ流しや落水をせずに、止水期間を守りましょう。


### I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	7月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早期)	穂いもち	やや少	並	137～142	 いもち病
	紋枯病	やや多	並	143～144	
	斑点米カメムシ類	やや多	やや少	161～162 180～183	
水稲 (早植え)	葉いもち	やや少	並	137～142	
	トビイロウンカ	並	並	152～154	
	セジロウンカ	やや少	並	155～156	
	コブノメイガ	やや少	並	159～160	
<b>1. いもち病</b> 蔓延を防止するために、発生初期に防除を行う。進展型病斑（円形ないし楕円形で、中央が灰白色、周縁が紫黒色となる病斑）がみられた場合は、早急に防除を行う。					
水稲 (普通期)	葉いもち	並	並	137～142	 トビイロウンカ
	トビイロウンカ	並	並	152～154	
	セジロウンカ	やや少	並	155～156	
	コブノメイガ	並	並	159～160	
<b>1. いもち病</b> 一部の補植用苗でいもち病がみられる。残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに除去する。本田で、新たな病斑の発生が認められた場合には、速やかに防除を行う。 <b>2. スクミリングガイ</b> 大雨による浸冠水によりスクミリングガイが侵入した中晩生水稲品種では、直ちに薬剤防除を行う。					

水稲全般	<p><b>1. 海外飛来性害虫（ウンカ類、コブノメイガ）</b> 今後、当センターが発表する飛来状況に注意しながら、圃場における発生状況を確認する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照）。多発生が予想される場合、中晩生品種では第1世代虫を対象に薬剤防除を行う。</p> <p><b>2. イネいもち病</b> BLASTAMIによる感染好適条件の出現状況を参考に、圃場での発生に注意する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照）。</p>
------	---

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	7月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (育苗圃)	ハダニ類	多	多	214~215	 イチゴハダニ類
	うどんこ病	やや少	やや少	204~206	
	苗立枯症 (炭疽・疫病)	並	並	208~212	
	アブラムシ類	やや少	並	219~220	
	<p><b>1. ハダニ類</b> 本圃での発生を抑えるには、育苗期の防除が重要である。薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖型薬剤を活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いので、5~7日間隔で計2回を1セットとして散布する。</p> <p><b>2. 立枯性病害（炭疽病、疫病、萎黄病）</b> 炭疽病については、親株からの定期的な薬剤防除を徹底する。立枯性病害（炭疽病、疫病、萎黄病）については、ビニル雨よけや水滴の小さい灌水装置を利用して、水はねによる菌の飛散を防ぐ。また、これらの発病株の発生を認めた場合は、早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。</p>				
アスパラガス	茎枯病	やや少	やや少	318~319	 ネギアザミウマ
	褐斑病	やや少	やや少	319~320	
	斑点病	少	少	319	
	アザミウマ類	多	多	322	
	ハダニ類	やや多	多	322~323	
	<p><b>1. 茎枯病、褐斑病、斑点病</b> 晴天日には施設開口部を開放し通風を図る。各病害とも3週間間隔を目安とし発生前から薬剤防除を実施する（前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨日が続く場合は間隔を短縮）。特に、茎枯病については、降雨時にサイドビニルを降ろし雨の降り込みを防ぐとともに、発病茎は見つけ次第、除去し適切に処分する。</p> <p><b>2. アザミウマ類</b> 若茎及び親茎への本虫による被害を防ぐため、虫見板（約20×30cm）への払い落とし（擬葉部を2~3回叩く）により調査し、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。</p> <p><b>3. ハダニ類</b> 多発生すると防除が困難となるので、発生初期での防除を徹底する。虫見板への払落としを行い、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。</p>				

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	7月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
果樹全般	果樹カメムシ類	多	多	240~243	
	<b>1. 果樹カメムシ類</b> 飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。				
カンキツ	そうか病	並	並	210~212	 ミカンハダニ
	かいよう病	並	並	214~216	
	黒点病	やや少	並	212~214	
	ミカンハダニ	多	多	234~238	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多	230~234	
<b>1. ミカンハダニ</b> 一部圃場で発生が多い。梅雨明け後もハダニの密度が減少しない場合は、殺ダニ剤による防除を行う。ただし、薬剤抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。					
ナシ	黒星病	やや少	少	278~281	 ナシ黒星病
	ナシヒメシクイ	やや多	並	292~295	
	ハダニ類	やや多	やや多	297~300	
<b>1. 黒星病</b> 6月下旬~7月上旬は主要な感染期となるため、DMI 剤を用いた防除を必ず実施する。発生園、常発園または雨が続く場合には、DMI 剤を追加散布する。 <b>2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布</b> 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。					
ブドウ	黒とう病	並	並	325~327	 ブドウべと病
	べと病	並	多	328~330	
	褐斑病	並	並	330~331	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多	337~338	
<b>1. べと病</b> 降雨により感染が進展するため、降雨前の予防散布を徹底する。また、べと病の罹病葉は伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 <b>2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布</b> 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。					

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	7月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	多	多	407~408	 輪斑病
	クワシロカイガラムシ	多	多	414~415	
	チャノキイロアザミウマ	多	多	413~414	
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	やや多	412~413	
	チャノコカクモンハマキ	並	やや多	411~412	
	チャノホソガ	並	やや多	410	
	炭疽病	やや少	並	402~403	
	輪斑病	やや多	多	403	
<p><b>1. チャトゲコナジラミ</b> 第一世代成虫発生期は7月上旬頃である。発生園では、成虫が見られなくなった頃（7月下旬頃の若齢幼虫期）に防除を実施する。</p> <p><b>2. クワシロカイガラムシ</b> 一部圃場で発生が多い。防除適期は第二世代幼虫ふ化期の7月中下旬頃である。園内の発生状況を観察し、ふ化最盛期に防除を実施する。</p> <p><b>3. チャノキイロアザミウマ</b> 一部圃場で発生が多い。萌芽期～開葉初期に防除を行う。多発生園では、さらに一週間後を目安に追加防除を行う。</p> <p><b>4. 輪斑病・新梢枯死症</b> 葉や茎の傷口から感染するため、摘採直後に防除を実施する。また、輪斑病菌による秋期の新梢枯死症を防ぐため、浅刈り後に防除を行う。二番茶摘採後に多発した場合は、剪枝により病斑部を除去する。</p>					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。  
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。  
 ○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
 6ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 7月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する7月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成30年6月25日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

#### 気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における7月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (23.3℃)	50	高い
降水量	40	40 (339 mm)	20	やや少ない

### Ⅲ. 7月の予報

## 水稻（早期、上場地域）

定期調査：12 圃場  
調査日：6月22日



定期調査圃場の様子

### 1. 穂いもち

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
葉いもち発生株率：0%（平年3.7%、前年0%）  
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
    - (2) 7月の気象予報  
気温は高く、降水量はやや少なく、少発生の条件（-）
  - 3) 防除上注意すべき事項
    - (1) 葉いもちの発生が認められている圃場では、穂ばらみ期に穂いもちの防除を行う。葉いもちの発生が上位葉に見られるなど穂いもちの多発生が予想される場合には、穂揃い期にも防除を行う。

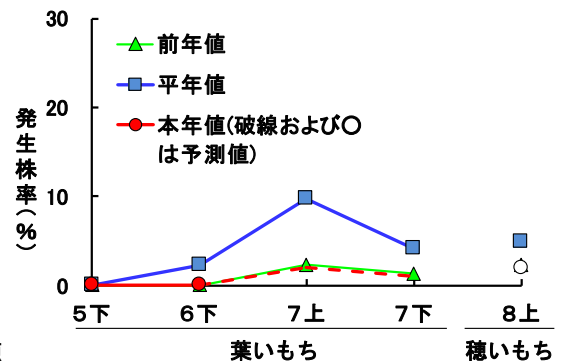


図1 早期水稻での葉いもちの発生推移

### 2. 紋枯病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：0%（平年0.0%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - (2) 7月の気象予報  
気温は高く、降水量はやや少なく、やや多発生の条件（±～+）
  - 3) 防除上注意すべき事項
    - (1) 早期水稻の出穂期～登熟期は気温が高い時期であり、本病が進展しやすいので、出穂の20～10日前（粒剤の場合は30～20日前）を中心に防除する。
    - (2) 薬剤は株元に十分かかるように散布する。

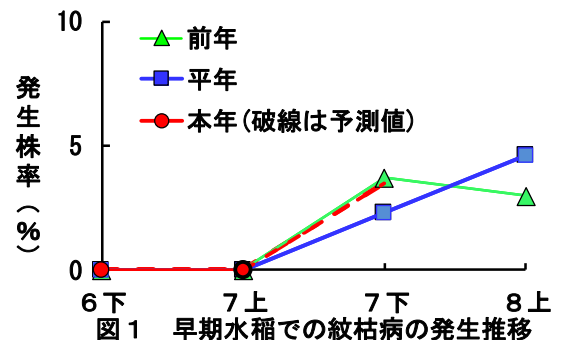


図1 早期水稻での紋枯病の発生推移

### 3. 斑点米カメムシ類

（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等）

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
  - (1) イネ科雑草でのすくい取り調査（6月22日～25日）  
発生量は平年よりやや少ない（表1）。（-～±）
  - (2) 7月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水稻の出穂 10 日前までに畦畔を含めて除草を行う。
- (2) 乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその 7~10 日後に薬剤防除を行う。

表 1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

調査地点	場所	草種	20回すくい取り虫数(2018年6月22~25日)								
			クモヘリカメムシ		ネソハリカメムシ		シラネシカメムシ類		アカシツカシカメ		ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市川副町	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	7	1	0
佐賀市諸富町	道端	エノコログサ類	0	0	2	0	0	0	7	3	0
唐津市鎮西町①	牧草地	イタリアンライグラス	0	0	1	0	0	0	26	3	0
唐津市鎮西町②	空き地	イタリアンライグラス	0	0	1	0	0	0	9	4	0
唐津市肥前町	牧草地	イタリアンライグラス	0	0	0	0	0	0	10	0	0
武雄市北方町	空き地	エノコログサ類	1	0	1	0	1	0	16	0	0
武雄市橋町	空き地	イタリアンライグラス	3	1	4	0	0	1	19	78	0
白石町福富	道端	エノコログサ類	0	0	1	0	0	0	0	0	0
吉野ヶ里町箱川	道端	エノコログサ類	0	3	1	0	0	0	3	4	1
太良町大浦	果樹園	イタリアンライグラス、メシハ	4	0	0	0	0	0	5	0	0
平均(本年)			0.8	0.4	1.1	0.0	0.1	0.1	10.2	9.3	0.1
前年			2.2	0.3	1.1	0.3	1.7	0.2	48.6	31.0	0.1
平年(過去10年の平均)			2.0	0.0	1.1	0.2	0.7	0.1	23.5	13.3	0.1

水稻（山間早植え）

定期調査：16圃場  
調査日：6月25日



定期調査圃場の様子（早植え水稻）

1. 葉いもち

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.03%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

(2) 葉いもち感染好適条件出現状況【県内、隣接県 計11地点】

BLASTAM（6月20日~26日）において、感染好適条件は6月24日に2地点で出現し、感染準好適条件は6月23日に3地点で出現した（表2）。〈±〉

(3) 7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、少発生の条件〈-〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項参照。

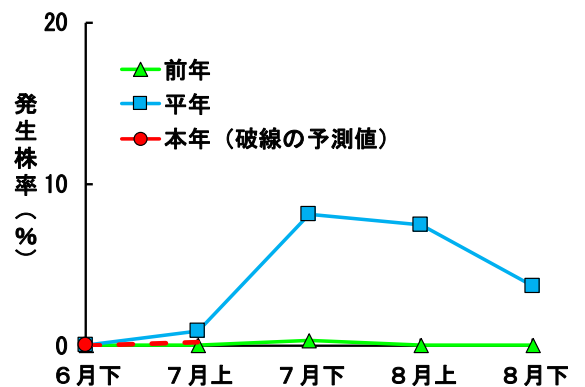


図1 山間早植え水稻での葉いもちの発生推移

表2 BLASTAMIによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	4	4	—	—	—	—	4	—
24日	—	—	—	10	—	—	—	—	10	—	—
25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) 1: 準好適条件 (前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上)  
 2: 準好適条件 (前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)  
 3: 準好適条件 (湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)  
 4: 準好適条件 (湿潤期間中の気温は比較的低いが、湿潤が10時間以上)  
 10: 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)  
 —: 好適あるいは準好適条件の出現なし  
 ?: 判定不能

## 2. トビイロウンカ

### 1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) これまでの飛来状況

5月25日から6月24日まで、嬉野市の予察灯において、誘殺を確認していない。飛来量は平年(2.9頭)よりやや少ない(P9, 表3)。

〈一~±〉

#### (2) 発生の現況

##### ① 定期調査(図1参照)

発生株率: 0% (平年0.0%、前年0%) 平年比: 並〈±〉 前年比: 並〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

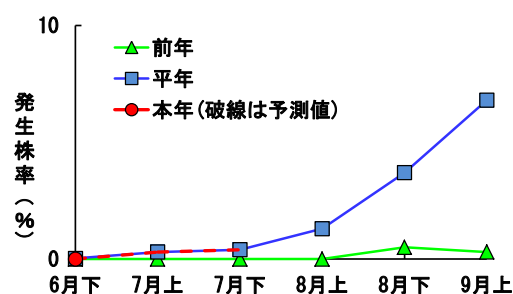


図1 山間早植え水稲でのトビイロウンカの発生推移

## 3. セジロウンカ

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) これまでの飛来量

平年並である(P9, 表3)。〈±〉

#### (2) 発生の現況

##### ① 定期調査

発生株率: 0% (平年2.7%、前年4.3%) 平年比: やや少〈一~±〉 前年比: 少〈一〉

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

## 4. コブノメイガ

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) これまでの飛来状況

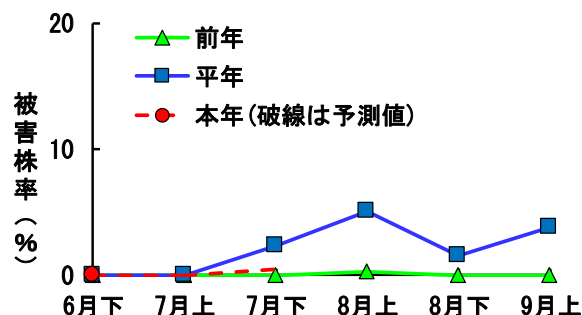


図1 山間早植え水稲でのコブノメイガの発生推移



平年よりやや少ない(表3)。〈-~±〉

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.0%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。

(2) その他については、特記事項を参照する。

表3 ウンカ類及びコブノメイガの飛来状況(平成30年)【平成30年6月26日現在】

月	日	トビイロウンカ						セジロウンカ						コブノメイガ						
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県				長崎県		
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神崎市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
ネットトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ネットトラップA	ネットトラップB	ネットトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ネットトラップA	ネットトラップB	フェロモントラップA	フェロモントラップB	粘着トラップ(20W蛍光灯)	粘着トラップ(20W蛍光灯)	粘着トラップ(20W蛍光灯)	粘着トラップ(20W蛍光灯)	フェロモントラップA	フェロモントラップB	
5月	25日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	26日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	27日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	28日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	29日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	30日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	31日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
6月	1日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	2日	0	0	0	-	0	0	1	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	5日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	24日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	-
	25日	0						0					0	-						
	26日	0						0					0	-						
	27日																			
	28日																			
6月1日~25日の総誘数(本年)		0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0
6月1日~25日の総誘数(平年)		0.2	0.1	2.9	-	-	24.1	5.1	172.1	-	-	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-

注1) ウンカ類：川副町ネットトラップと予察灯(ライトトラップ)は農業試験研究センター調査。嬉野予察灯は農業技術防除センター調査。平年値は過去10年(平成20~29年)の平均値。  
 注2) コブノメイガ：佐賀市は農業試験研究センターで調査。神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。農業試験研究センターは平成27年まで20W蛍光灯粘着トラップ、それ以降はフェロモントラップ。防除員は20W蛍光灯粘着トラップ。長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。平年値は過去10年(平成20~29年)の平年値。

水稻 (普通期)

定期調査：48 圃場  
 調査日：6月22日~25日



定期調査圃場の様子 (普通期水稻)

1. 葉いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年0.3%、前年 0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

②定期調査時に、一部圃場で補植用苗にいもち病の発生を認めた（発生圃場率 14.7%）。〈±～+〉

(2) 7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、少発生の条件〈-〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照

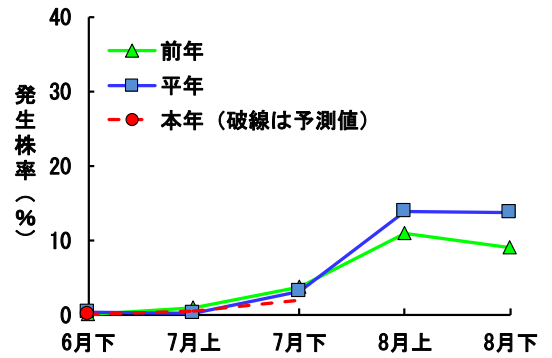


図1 普通期水稻での葉いもちの発生推移

## 2. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

早植え水稻に準ずる（表3参照）。〈-～±〉

(2) 発生の現況

①定期調査

発生株率 0%（平年0.0%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

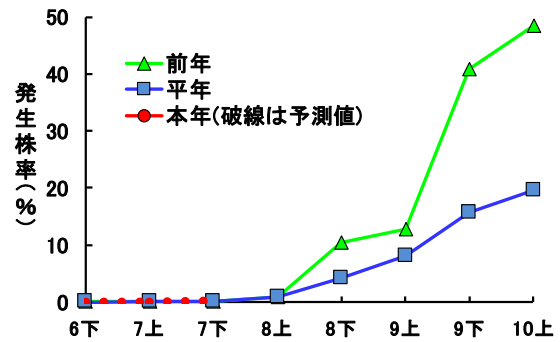


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

## 3. セジロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来量 早植え水稻に準ずる（表3参照）。〈±〉

(2) 発生の現況

①定期調査

発生株率 0%（平年1.2%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

## 4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

早植え水稻に準ずる（表3参照）。〈-～±〉

(2) 発生の現況

①定期調査

発生株率 0%（平年0.0%、前年0%）

平年比：並（±）、前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) もち品種等では止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。
- (2) 特記事項参照。

## イチゴ（育苗圃）

定期調査：11 圃場  
調査日：6月22～25日



定期調査圃場の様子

### 1. ハダニ類

- 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 予報の根拠
  - 発生の実況
    - 定期調査（図1参照）  
発生株率：6.5%（平年7.2%、前年8.4%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - 7月の気象予報  
気温が平年より高く、降水量は平年よりやや少なく多発生の条件（+）
- 防除上注意すべき事項
  - 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
  - その他については特記事項を参照。

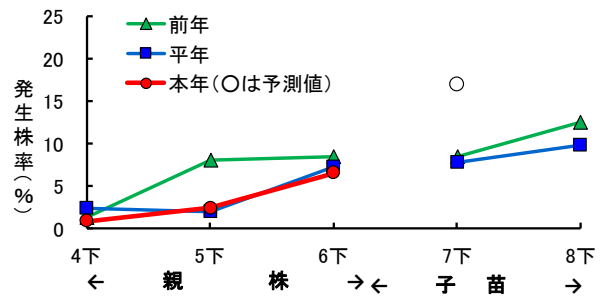


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

### 2. うどんこ病

- 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）
- 予報の根拠
  - 発生の実況
    - 定期調査（図1参照）  
発生株率：34.5%（平年41.7%、前年30.0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - 7月の気象予報  
気温が平年より高く、降水量は平年よりやや少なく少発生の条件（-）
- 防除上注意すべき事項
  - 定期的な薬剤防除を実施する。

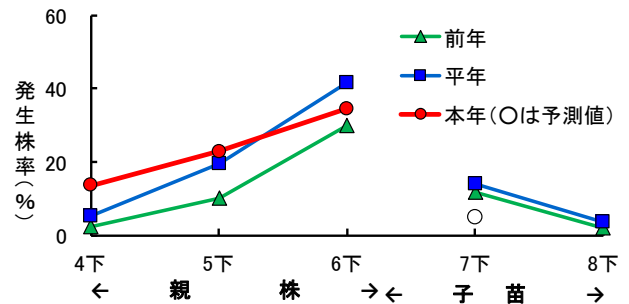


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

### 3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

- 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 予報の根拠
  - 親株での発生の実況
    - 定期調査（図1参照）  
発生株率：0%（平年0%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）

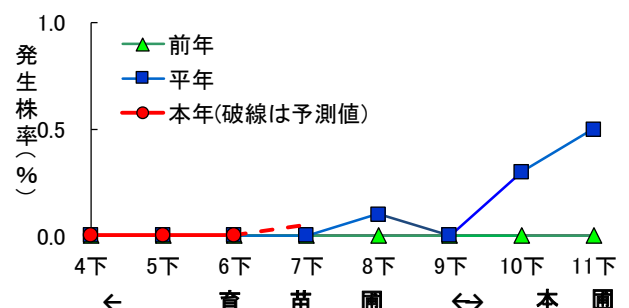


図1 イチゴ立枯症の発生推移

(2) 7月の気象予報

気温が平年より高いものの、降水量は平年よりやや少なく  
並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨が多い梅雨期は、病原菌の飛散・感染に好適な時期であるため、防除を徹底する。
- (2) その他については特記事項を参照。

# アスパラガス

定期調査： 8圃場  
調査日： 6月21日～25日



定期調査圃場の様子

## 1. 茎枯病

1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率： 0% (平年 0.1%、前年 0.1%)

平年比： 並(±) 前年比： 並(±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件(一～±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。



図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

## 2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率： 0% (平年 0.4%、前年 0.0%)

平年比： 並(±) 前年比： 並(±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件(一～±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

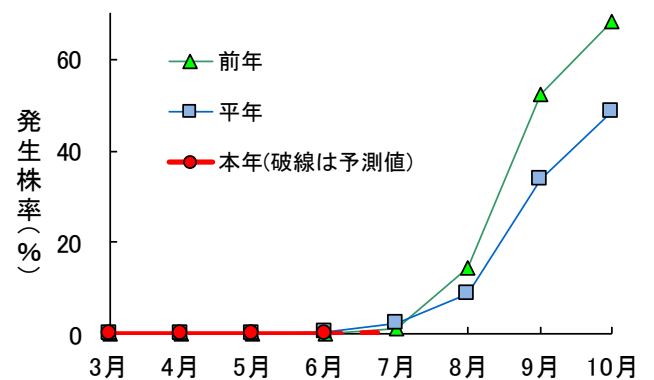


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

## 3. 斑点病

1) 予報の内容

発生量： 平年より少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率： 0% (平年 3.5%、前年 2.5%)

平年比： やや少(一～±) 前年比： やや少(一～±)

(2) 7月の気象予報

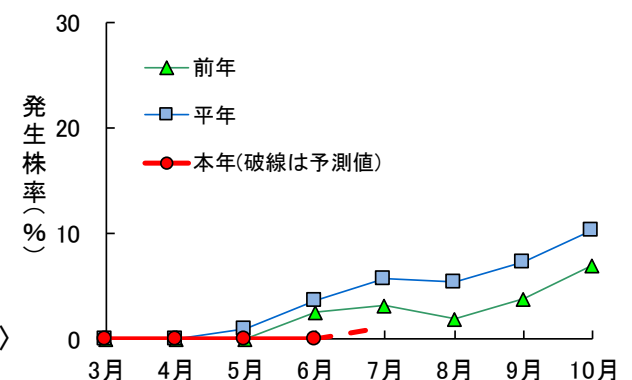


図1 アスパラガス斑点病の発生推移

降水量がやや少なく、やや少発生の条件〈-～±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## 4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：43.1%（平年23.6%、前年36.9%）

平年比：多〈+〉 前年比：並〈±〉

(2) 7月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

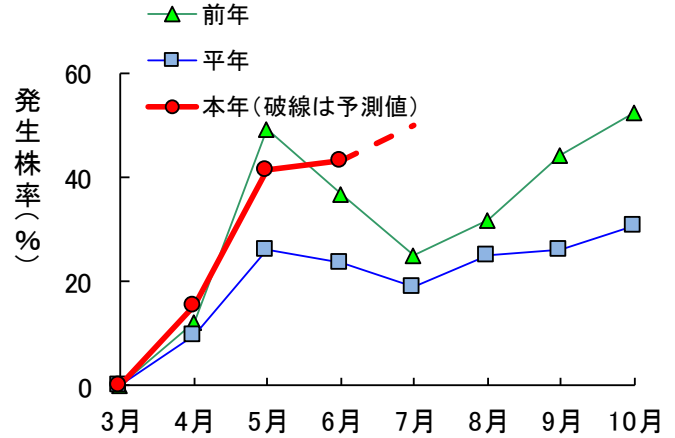


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

## 5. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.7%、前年0.0%）

平年比：やや少〈-～±〉 前年比：並〈±〉

(2) 7月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

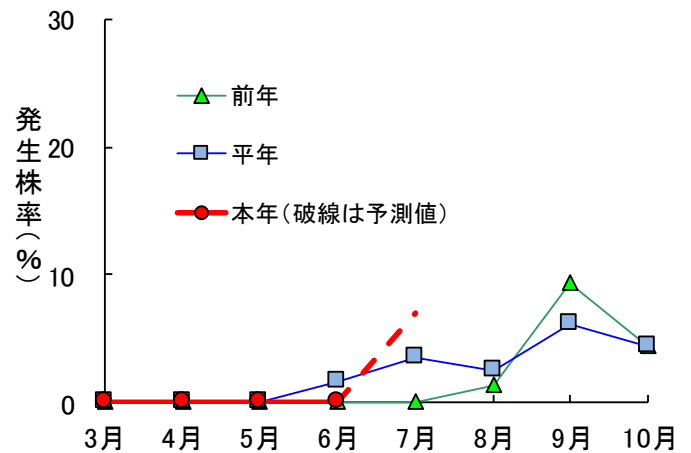


図1 アスパラガスでのハダニ類の発生推移

## 果樹全般

### 1. カメモシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 5月1半旬～6月4半旬までの誘殺量

① 予察灯（図1参照）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

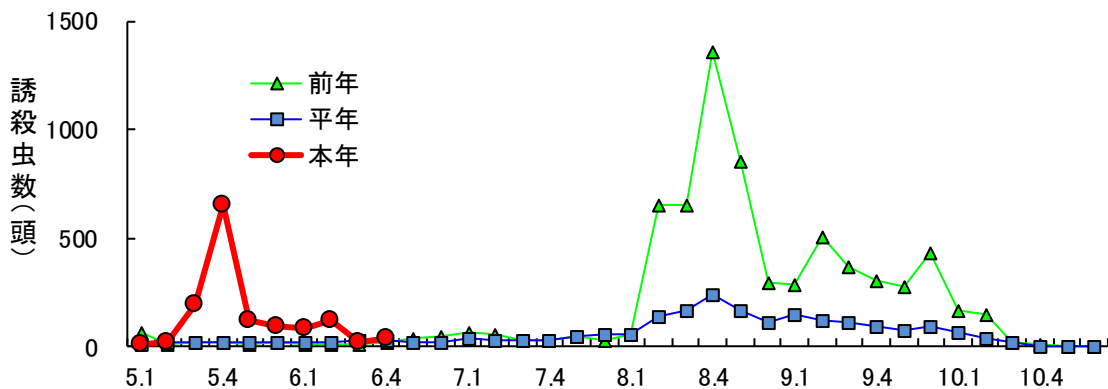


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

②フェロモントラップ（図2参照）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

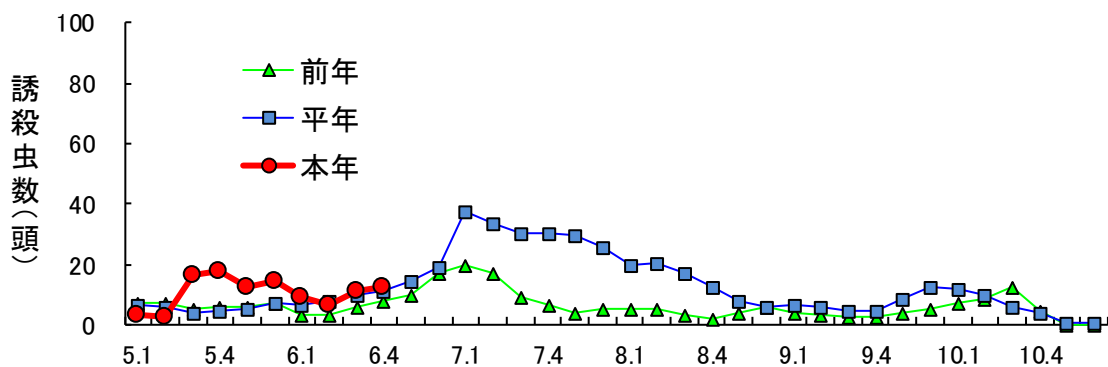


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くなならないよう剪定をする。
- (2) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサージェンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

**カンキツ**

定期調査：8 圃場  
調査日：6月19～22日



定期調査圃場の様子

**1. かいよう病**

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1、2参照）

発生葉率：0%（平年0.1%、前年0%）

平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉

発生果率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

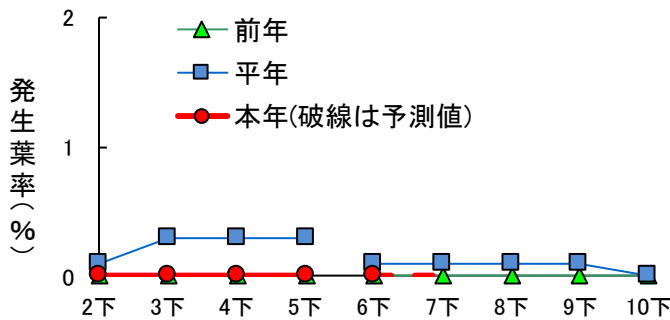


図1 カンキツかきよう病の発生推移  
注) 5月下旬までは旧葉を調査

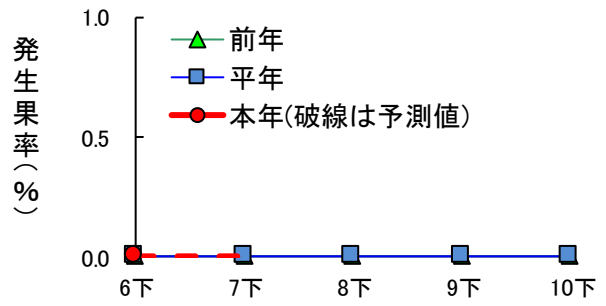


図2 カンキツかきよう病 (果実) の発生推移

(2) 7月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (一~±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種 (ネーブル、はるみ等) の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園 (幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等) では、無機銅水和剤 (クレフノン 200 倍加用) で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20~25 日とする。
- (2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。
- (3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。
- (4) 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来 7 日前~前日までに必ず銅水和剤による防除を行う。

## 2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図 1 参照)

発生果率: 0.1% (平年 0.6%、前年 0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (一~±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が 200~250mm (マシン油乳剤を 6 月に加用した場合は 300~400mm) に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後 1 ヶ月を目途に次の散布を行う。
- (2) 枯れ枝は伝染源となるため除去し、処分する。

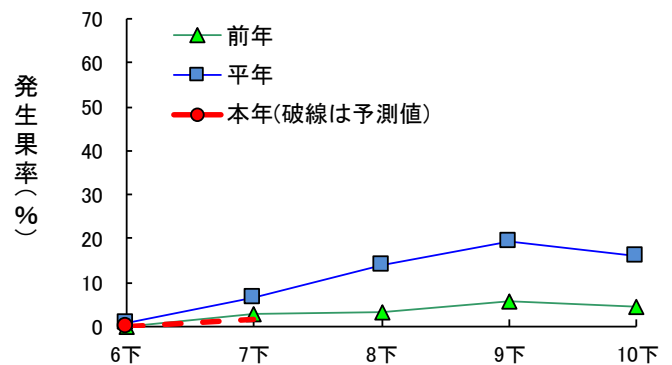


図1 カンキツ黒点病の発生推移

## 3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図 1 参照)

発生葉率: 24.5% (平年 12.7%、前年 22.3%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: 並 (±)

(2) 7月の気象予報

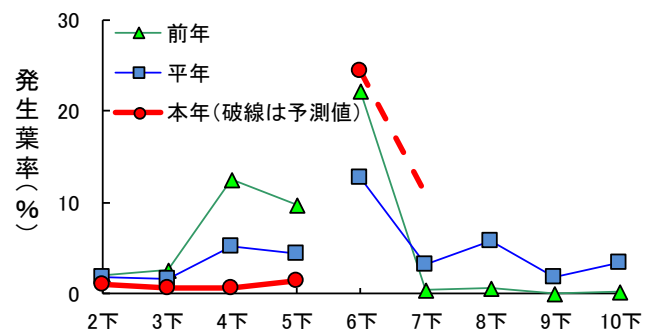


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移  
注) 5月下旬までは旧葉を調査

気温が高く、降水量がやや少なく、多発生の条件〈+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率 30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5~1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。
- (2) マシン油乳剤を7月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招く場合があるので使用しない。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

## 4. チャノキイロアザミウマ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生果率：0%（平年0.0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

##### ② 黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：少（-）

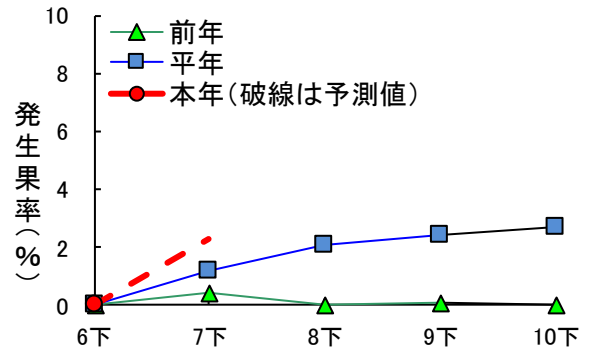


図1 チャノキイロアザミウマによる被害果の発生推移

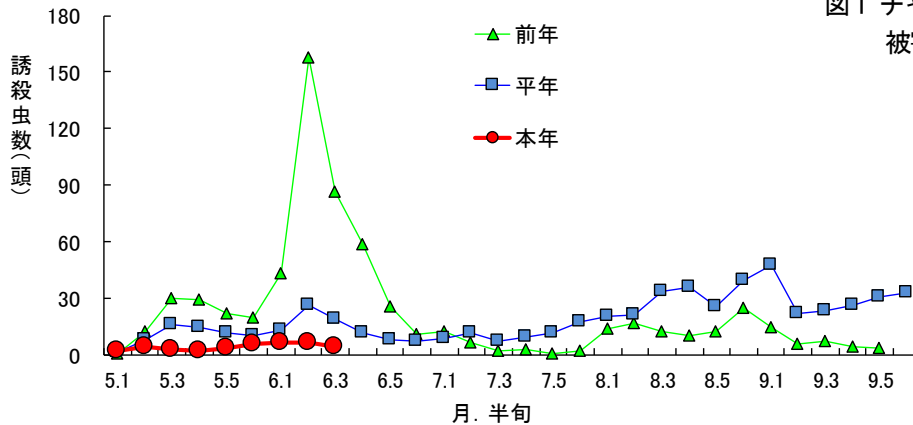


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（小城市 果樹試験場調査）

### (2) 7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、多発生の条件〈+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫の発生が多い地域では、7月中下旬頃に薬剤防除を徹底する。
- (2) イヌマキ、サンゴジュ等は本虫の発生源となるため、防風樹として植栽している園では特に発生に注意し、防除を行う。

ナシ

定期調査（6圃場）  
調査日：6月20日



定期調査圃場の様子

## 1. 黒星病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1、2参照）

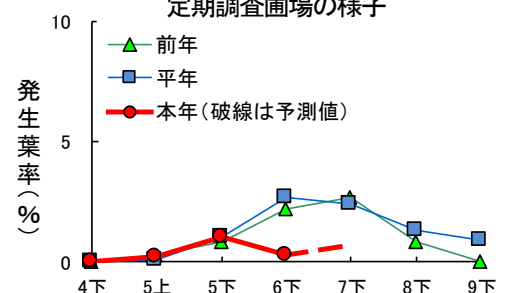


図1 ナシ黒星病（葉）の発生推移



発生葉率：0.3%（平年2.7%、前年2.2%）  
 平年比：少（-） 前年比：少（-）  
 発生果率：0.2%（平年1.4%、前年0.4%）  
 平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

2) 7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉や発病果実は伝染源となるため除去し、処分する。
- (2) 曇雨天が続くと発生が多くなるので、天気予報等を参考に適切に防除する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

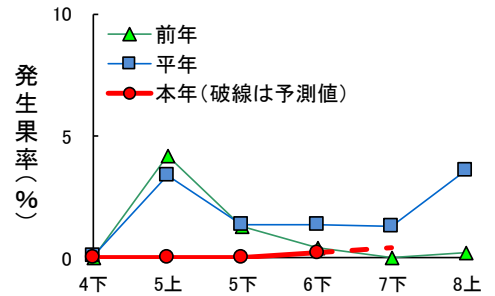


図2 ナシ黒星病（果実）の発生推移

## 2. ナシヒメシクイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①ナシ園地に設置したフェロモントラップ（図1参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

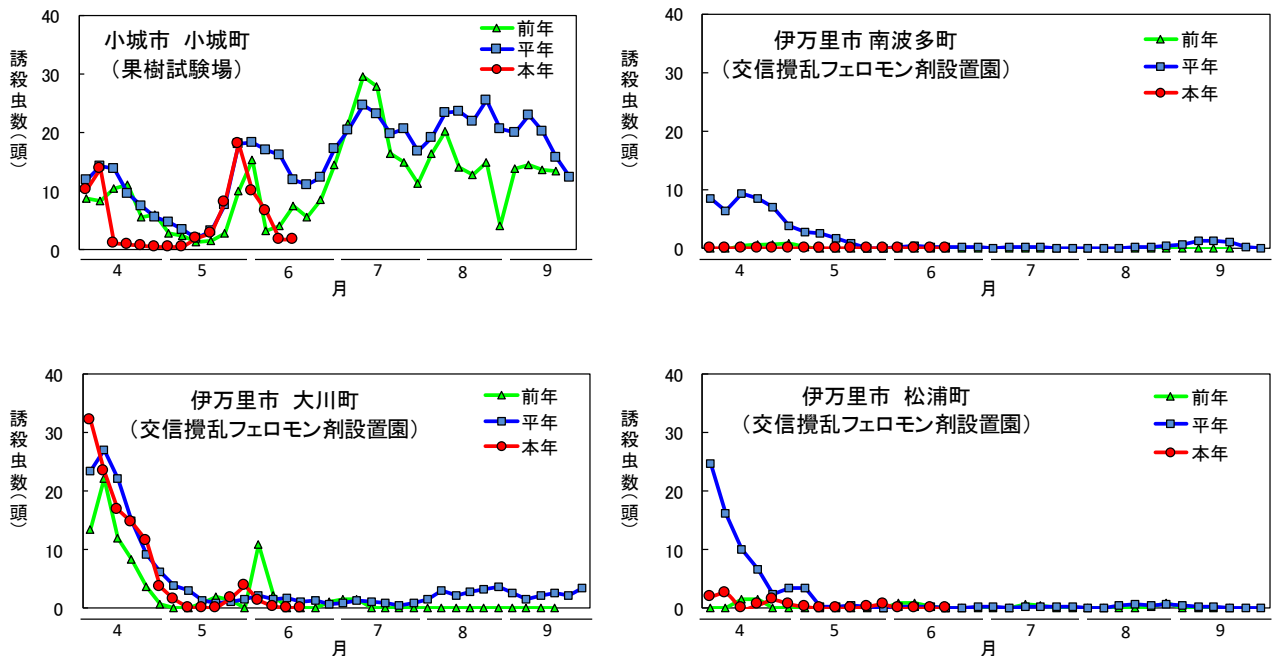


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数の推移  
 （果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査）

②サクラに設置したフェロモントラップ（表1参照）

伊万里市 3ヶ所での6月第1半旬から第4半旬までの誘殺数は前年よりやや少ない（-～±）

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシクイの誘殺数（頭）  
 （西松浦農業改良普及センター調査）※6月1～4半旬の合計値

地点名	H27年	H28年	H29年	H30年
伊万里市 南波多町	7	8	6	7
伊万里市 大川町	34	17	36	2
伊万里市 新天町	74	50	51	48
計	115	75	93	57

- (2) 7月の気象予報  
 気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 7月以降は世代が混在するため、7~10日間隔で薬剤散布を行う。  
 (2) 交信攪乱フェロモン資材設置園においても、10~14日間隔で薬剤防除を行う。

### 3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0.1%、前年0%）  
 平年比：やや少〈-~±〉 前年比：並〈±〉

(2) 7月の気象予報

気温が高く、降水量が少なく、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5~1頭未満）からの防除を徹底する。  
 (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。

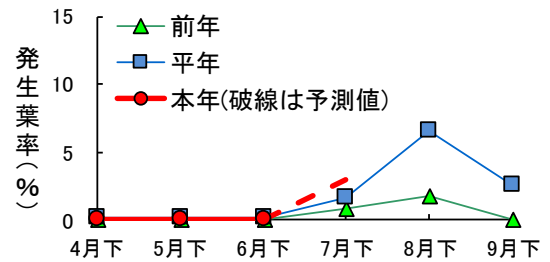


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

**ブドウ** 定期調査（6圃場）  
 調査日：6月19~22日



定期調査圃場の様子

### 1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0.7%（平年0.1%、前年0%）  
 平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

(2) 7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、少発生の条件〈-〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。  
 (2) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフロアブル等）に対し耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除には使用しない。  
 (3) その他については、特記事項を参照。

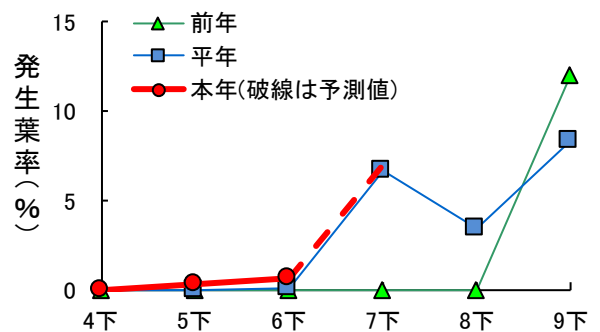


図1 ブドウべと病の発生推移

### 2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①黄色粘着トラップ（カンキツのチャノキイロアザミウマ（図2）参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

(2)7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)6月中旬～7月中旬頃は主要な加害時期であるため、薬剤防除を徹底する。

茶

定期調査：7圃場

調査日：6月19～22日



定期調査圃場の様子

## 1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：1.7%（平年2.2%、前年13.6%）

平年比：並（±） 前年比：少（-）

(2)7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤は年一回の使用とする。

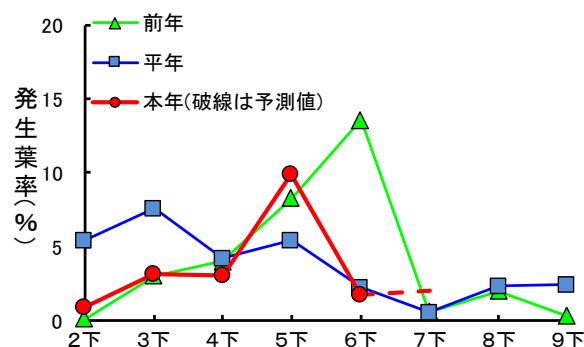


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

## 2. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1は雄繭の発生推移）

寄生株率（雄繭）：37.1%（平年29.7%、前年38.6%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

(2)7月の気象予報

降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

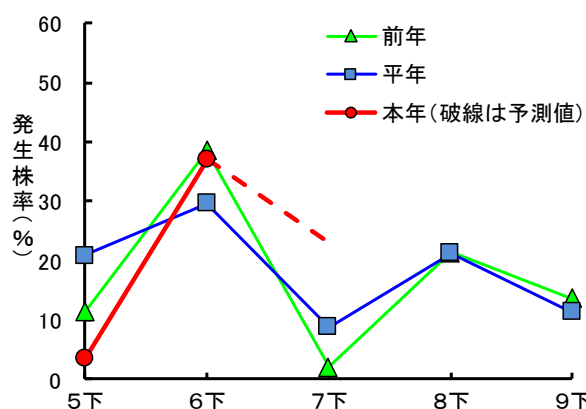


図1 クワシロカイガラムシ(雄繭)の茶での発生推移

## 3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：41.7頭（平年18.3頭、前年28.4頭）

平年比：多（+） 前年比：やや多（±～+）

②吸引粘着トラップ（図2参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

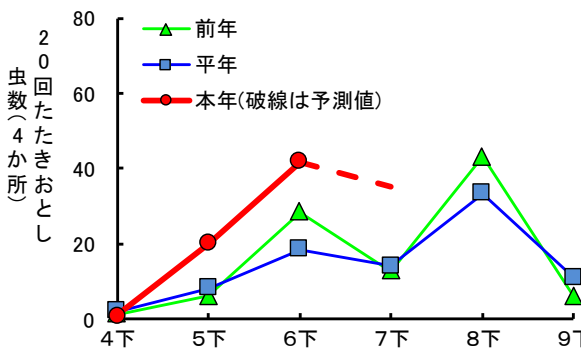


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

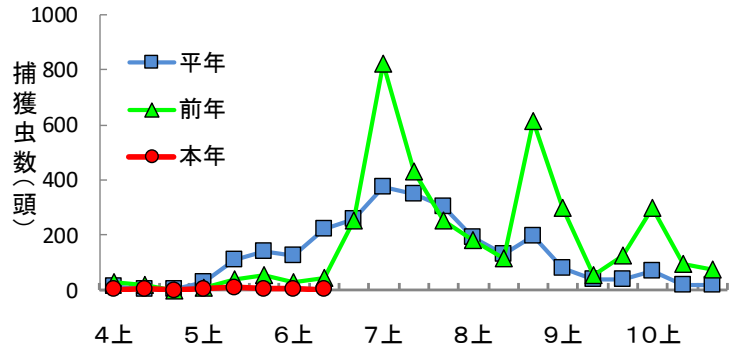


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 7月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## 4. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：2.0頭

（平年3.0頭、前年1.0頭）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 7月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 萌芽期～開葉初期に防除を行う。多発生園では、さらに一週間後を目安に追加防除を行う。

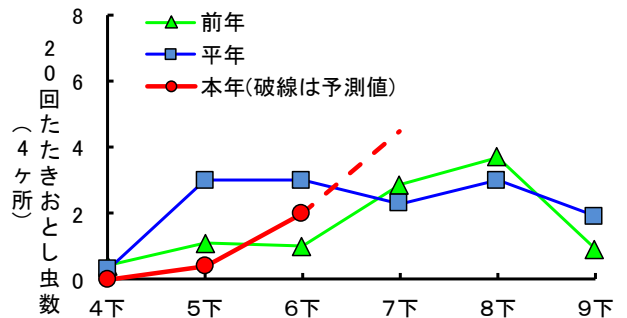


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

## 5. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照、H30より5月調査追加）

発生葉数：0.1枚/m<sup>2</sup>（平年1.3枚、前年3.1枚）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

(2) 7月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病は雨滴により新芽に伝染するため、開葉初期の予防散布を実施する。

(2) 三番茶を摘採しない園は、二番茶摘採後に浅刈り等を行い、発病葉を除去する。

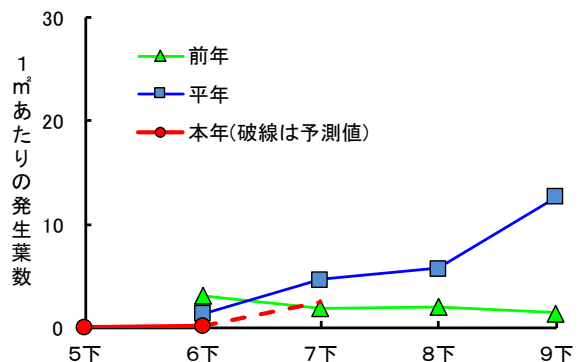


図1 炭疽病の発生葉数の推移

## 6. 輪斑病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1 参照）

発生葉数：0.6 枚/m<sup>2</sup>（平年0.1 枚、前年0 枚）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

#### (2) 7月の気象予報

気温が高いものの、降水量がやや少なく、並発生の条件〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

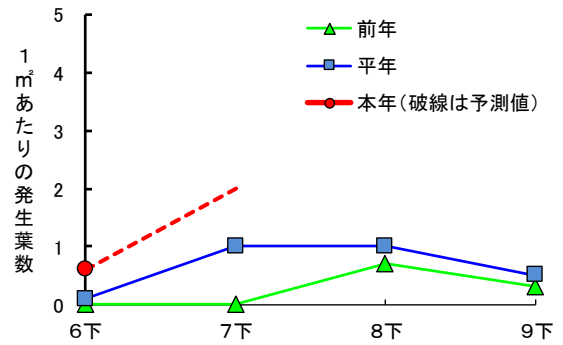


図1 輪斑病の発生葉数の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085  
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp